

二〇一九年八月二六日

耳遠き父は早寝や盆の月
溪流の水際縁どる草紅葉
一駅を途中下車して星月夜

二〇一九年八月二五日

渴筆の万葉仮名の文字涼し
藪枯あらぬ辺を向く道標

二〇一九年八月二四日

帰省子の自由研究付き合ひぬ
端正な大仏の顔月涼し

熱帯夜間遠に響く救急車
大橋の下に涼める渡し守

帰省子の釣果に夕餉賑ひぬ
灯を消して月光入るる仏間かな

二〇一九年八月二三日

迎火の煙誘ふごとく風
早稲の花弘法道を詣で人

大花火果てて河原の虫浄土

二〇一九年八月二二日

神苑に聴く初声や法師蝉

朝顔や幼子の靴干す垣根

二〇一九年八月二一日

日盛りや陰へ陰へと植木鉢
わんぱくがねずみ花火に逃げ惑ふ
銀鱗の眩し大漁鰯網

高塀を越えて向日葵顔出しぬ

研ぎ終えし刺身包丁盆用意

帰省子のいがぐり頭撫で回す

二〇一九年八月一〇日

湾を呑むぞと高波や台風裡

明日香

菜々

素秀

なつき

三刀

せいじ

なつき

毎日句会みのる選・二〇一九年八月一八日